

# 暴風雪による災害や 冬の地震災害に 備えましょう

暴風雪は、発達した低気圧が北海道付近を通過する時や冬型の気圧配置の時に多く発生し、特に好天から悪天へと天気が急変した場合は被害が起きやすくなります。

また、空知地方では、石狩湾付近に小さな低気圧が発生した際に局地的に暴風雪となることがあります。

暴風雪が発生すると、吹きだまりや視界不良が発生し、車の運転や歩行が困難となり身動きが取れなくなることがあります。さらに、住宅では暖房機等の給排気口がふさがれて一酸化炭素中毒を起こす危険性や、電線着雪や強風、飛散物などにより電線が切れるなどして停電が発生し、照明や暖房器具が使えなくなるおそれがあります。

北海道では、暴風雪による災害が繰り返し起きており、時には人命を奪うほどの災害となることがあります。平成25年3月の暴風雪災害では、午前中晴れていた天気が数時間後に急変し、猛ふぶきや吹きだまり、視界不良となっており、道内各地で車の立ち往生が多数発生しました。

気象台では、暴風雪により重大な災害が発生すると予想した時に、「暴風雪警報」を発表し、警戒を呼びかけます。最新の気象情報や雪の状況を、テレビ・ラジオやインターネットなどにより確認し、暴風雪が予想されるときは、無理をせず外出を控えるなどの対策をしましょう。

## ■日常から暴風雪に備える

### ◆家の中で安全に過ごすために

- ・ 停電に備えて、懐中電灯、携帯ラジオ、防寒具、ポータブルストーブや灯油、非常食、飲料水などを準備しておきましょう。
- ・ FF式暖房機等を使用している場合は、給排気口付近が雪でふさがれないよう注意しましょう。

# 冬の大地震に備えて

冬に大きな地震が発生した場合には、強い揺れや津波による被害に加え、雪や寒さが原因となる2次災害が起こることもあります。冬場は以下のような点に注意しましょう。

## ①雪に対する備え～ハザードマップの活用を～

屋根に雪が多く積もっていると、地震の揺れによる家の倒壊や、屋根からの落雪の可能性がより高くなります。屋根からの落雪は、人が巻き込まれる危険があるほか、避難路をふさぐ原因にもなりますので、日頃から自宅周辺などで落雪のおそれがあるところを確認しておきましょう。

冬の路面は歩きにくく、天気によってはさらに移動が困難になるため、夏場よりも避難に時間がかかります。また、細い道など積雪により歩行できなくなることもありますので、冬場でも通れる避難路をハザードマップ等で確認しておきましょう。

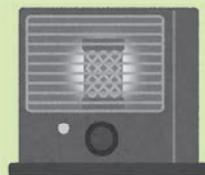


## ②火災に対する備え

暖房器具を使用する冬場の地震では、火災のリスクが高まります。転倒時に自動停止する機能があっても、停電からの復電と共に再起動したり、配線の損傷から漏電したりして出火する通電火災に注意が必要です。暖房器具のそばには可燃物を置かないようにし、避難の際はブレーカーを切るようにしましょう。

## ③寒さへの備え

地震によって電気やガスが止まり、暖房器具が使えなくなることが考えられます。さらに、救助活動や物資輸送が遅れることも考えられますので、ポータブルの暖房器具を用意しておきましょう。また、防寒着や防寒靴、毛布、カイロなどを避難時にすぐ持ち出せるようにしておくことで安心です。



お問い合わせ先：札幌管区気象台 地震火山課  
011-611-6125



### ◆止むを得ず車で外出するときは

・天気の急変などにより車が立ち往生することを想定して、防寒着、長靴、手袋、スコップ、牽引ロープなどを車に用意し、十分に燃料があることを確認しましょう。

◎札幌管区気象台ホームページ

<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/index.html>

◎北の道ナビ（北海道内の道路情報総合案内）

<http://northern-road.jp/navi/>

